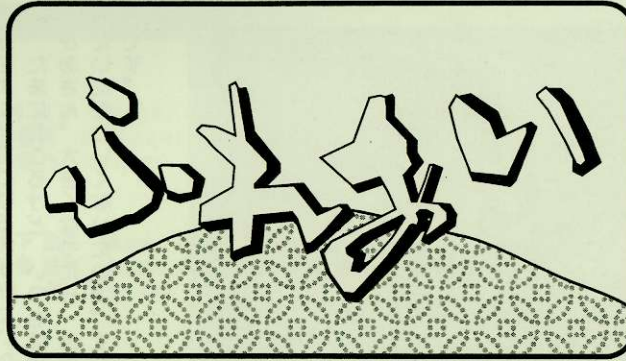


いろんな人と人とのつながり、  
ふれあいを美浜のMと波で  
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

## 第41号

発行:平成22年2月23日  
(年3回発行)

編集:人権協広報調査部会  
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-6709

FAX 32-9032

E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

# 「チベットからのメッセージ ～すべての人が幸せになるために～」

人権のつどい  
2009

## バイマーヤンジンさん トーク&コンサート

日本人より日本人らしい、バイマーヤンジンさん、お話はすべて「素直になる」だったのでしょね。とても私には…とも思うより、そうでありたいと…。



チベットの厳しい大自然のなかでの生活、そこで学ぶ子どもたちの様子を、映像と共に歯切れのよい大阪弁のトークで伝えてくださいました。また、異国の地である日本での15年間の日々のなかで感じられたこと、「チベットと日本、ほかのどこの国でも生活や文化に違いはあるが、人にとって大切なことはどの国でも同じなんだ」と、熱い語り口で教えてくださいました。

そして、なにより会場全体に響きわたる力強い歌声、ときに、心に語りかけるような透きとおったその歌声に聴いている全員が魅了されました。

民族は違って、家族や故郷を想う気持ちは同じと言われたことが、本当にその通りだと思いました。日本人だけれど分からなくなっている感覚に、チベットの方が感動し、歌ってられることに感動しました。受け入れるところから人間は始まると言ってから話されたことが印象的でした。

チベットのビデオを見て、電気もなく、1年の半分以上が冬という厳しい環境の中にあって、元気な明るい子どもたちの姿を見て、変わらぬ子どもたちのパワーに感動しました。

民族をこえて人権の大切さ、守らねばならないこと等に考えさせられました。

### バイマーヤンジンさんのHP

「<http://yangjin.jp/>」に、活動の様子や募金について掲載されています。また、こちらもお覧になりご協力ください。

すごく感動しました。「ヤンジンさんの学校建設をはじめとして、一生懸命生きる姿。」  
「チベットの子どものきらきらした目・姿、音読の大きな声…日本の子どもたちこそ、そういうものを。」

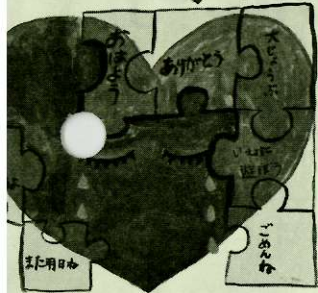
# あたたまる 絵・ポスター をありがとう



みんなおいでよ!  
弥美小学校1年 熊谷 大成

**おかあさんへ**  
菅浜小学校一年 中島明日香  
おかあさん、いつもありがとう。おかあさんのようりは、いつもおいしいよ。とくにスープがおいしいよ。  
まえに、おしごとを見にいったときに、おかあさんはかみのせいをしていたね。わたしは、すごいなあとおもいました。かみをよく見てわかるのが、たいへんだね。たまにおこるけど、いつもはやさしいおかあさん。大きくなったら、おかあさんみたいにかわいくなりたいよ。ずっと大好きです。

# いさな 思いやりが



# 心を救う

心を救う  
弥美小学校5年 中川 恋

**こわくてやさしいお母さんへ**  
美浜南小学校三年 橋本 奨汰  
お母さんは、ときどきおこるとこわいけれど、いつもやさしいです。ほくがおふるをあらったら、お母さんは「ありがとう。」と言ってくれます。何かお手伝いをしたら、かならず「ありがとう。」と言ってくれて、ほくはとってもうれしいです。ほくも、いつも「ありがとう。」と言いたのですが、はずかしがり屋なので言えませんでした。でも、この手紙で言いたいことが言えます。お母さん、いつも本当に「ありがとう。」大好きです。



ひるがのぼくじょう  
美浜東小学校3年 久保 悠斗

**亡き祖父へ贈る言葉**  
美方高等学校三年 小畑 美南海  
私の祖父が他界して、もう一週間になる。辛い闘病生活の中、やっと安らかな眠りにつくことができたあなた。今、あなたに手紙を書くのなら、やはり、ありがとうという言葉を書きたい。小さい頃、忙しかった親に代わり、たくさん遊んでくれてありがとう。勉強を教えてくれてありがとう。あなたに教わったことは、すべてが私の宝だ。あなたの描く絵が大好きだった。

**おばあちゃんへ**  
美浜中学校三年 塚村 友貴  
うれしい事があつた日も、悲しい事があつた日も、吹奏楽コンクールで緊張した日も、文化祭で楽しかった日も、体育祭でつかれた日も、たくさんの友達と遊んで、感動した日もくやしかった日も、「ただいま」と言えは「おかえり」と返ってくる、そんな毎日をありがとう。

**いつも見守ってくれている  
地いきの方へ**  
美浜南小学校五年 繁田 祐香  
登下校のときいつも見守ってくれている、地いきの方、地区の行事などでもいつも私たちを見守ってくれて、ありがとう。ごさいます。  
登下校のとき、いつも、見送ってくれたら、あいさつをされたりすると、とても気持ち良くなります。  
私はこれからも、一生けん命地いきの方へ、あいさつをして、もつと気持ちのいい、登下校にしていきたいです。

## 人権啓発キャンペーン町内各地を巡回

人権週間(12月4日~10日)中の12月4日に人権啓発キャンペーンの一行が美浜町内を巡回しました。



人権協総務人権部会が、人権擁護委員、法務局敦賀支局員とともに3台の車に分かれて、人権啓発の呼びかけを行いながら町内の事業所や保育園をまわりました。

### お互い挨拶を大切に!



太田 権一  
山口 権一

あるホテルの12階でエレベーターに乗った。下降して5階で止まるとドアが開き、家族連れが乗ってきた。小学生二人と幼児を抱っこしたお母さん、それにお父さんの一行五人である。私は「おはようございます。」と小学生を見て挨拶す

人権作品入賞者

【短い手紙】 小学校低学年

- ふれあい賞 中島明日香 (菅浜小1年)
- あったか賞 浅妻 智樹 (美浜南小2年) 中村 道子 (菅浜小2年) 山瀬 汰一 (丹生小2年)
- ほのぼの賞 岩本 憲伸 (菅浜小1年) 米須 豊樹 (美浜東小2年) 岡本 踐 (弥美小1年)
- 竹仲 龍輝 (弥美小1年) 江戸 彩乃 (弥美小2年)

小学校 中学年

- ふれあい賞 橋本 奨汰 (美浜南小3年)
- あったか賞 澤井 彩加 (美浜東小4年) 宮下 凧海 (美浜北小3年) 大同 健心 (弥美小3年)
- ほのぼの賞 金森 悠花 (美浜北小3年) 金森 透有 (美浜東小4年) 茂道 喬史 (丹生小4年)
- 辻 純名 (新庄小3年) 久保 葵 (新庄小4年)

小学校 高学年

- ふれあい賞 繁田 祐香 (美浜南小5年)
- あったか賞 寺川 史泉 (美浜北小5年) 宮下 海誓 (美浜北小6年) 茂道 佳史 (丹生小6年)
- ほのぼの賞 西野 綾華 (菅浜小5年) 中 常悠生 (美浜東小5年) 寺川 史菜 (美浜北小5年)
- 上光 瑞季 (美浜北小5年) 田波 梨奈 (丹生小6年)

中学校

- ふれあい賞 塚村 友貴 (美浜中3年)
- あったか賞 伊藤 悠里 (美浜中丹生分校3年) 堀口 亜弥 (美浜中2年) 木村海咲 (美浜中3年)
- ほのぼの賞 田邊真奈美 (美浜中1年) 楠 菜々子 (美浜中1年) 武田 隆祐 (美浜中1年)
- 野原 優 (美浜中3年) 繁田麻菜美 (美浜中3年)

高校

- ふれあい賞 小畑美南海 (美方高3年)
- あったか賞 岡林 桃子 (美方高3年) 小林 直美 (美方高3年) 清水 柚衣 (美方高3年)
- ほのぼの賞 赤尾亜香里 (美方高3年) 大久保祥子 (美方高3年) 福谷あゆみ (美方高3年)
- 宮川 真依 (美方高3年) 宮谷 将也 (美方高3年)

一般

- ふれあい賞 山崎穂津美 (関西電力美浜発電所)
- あったか賞 丹羽 悠介 (関西電力美浜発電所) 町田智弘 (関西電力美浜発電所)
- ほのぼの賞 金森 秀樹 (関西電力美浜発電所)
- 清水喜代江 (坂尻) 戸田 有紀 (関西電力美浜発電所) 近藤京介 (関西電力美浜発電所)
- 佐久間浩彰 (関西電力美浜発電所) 田中てい子 (竹茂)

【絵】 小学校低学年

- ふれあい賞 熊谷 大成 (弥美小1年)
- あったか賞 谷口 優希 (美浜北小1年) 高吉 楓香 (美浜東小2年) 満田有里菜 (美浜東小2年)
- ほのぼの賞 小林 歩夢 (新庄小1年) 千万 智生 (新庄小2年) 池野裕美子 (丹生小1年)
- 渡辺 海陽 (美浜北小2年) 江戸 悠花 (弥美小1年)

小学校 中学年

- ふれあい賞 久保 悠斗 (美浜東小3年)
- あったか賞 木戸 樺乃 (美浜東小4年) 宇都宮魁人 (美浜南小4年) 仲島 大雅 (弥美小4年)
- ほのぼの賞 野原 愛美 (新庄小4年) 藤井 佑太 (菅浜小3年) 石丸ひかり (弥美小3年)
- 大迫 恵悟 (弥美小4年) 嶋田 瀬菜 (弥美小4年)

【ポスター】 小学校高学年

- ふれあい賞 中川 恋 (弥美小5年)
- あったか賞 宮本 雄希 (美浜南小6年) 前田 美咲 (弥美小5年) 小嶋 大輝 (弥美小6年)
- ほのぼの賞 岩本 浩希 (菅浜小6年) 杉本 彩星 (美浜南小6年) 芝井 千紘 (弥美小5年)
- 寺崎 菜月 (弥美小6年) 畑中 眞悠 (弥美小6年)

中学校

- ふれあい賞 高木 咲希 (美浜中2年)
- あったか賞 北山 真夜 (美浜中2年) 原田 映里 (美浜中2年) 池田 愛菜 (美浜中2年)
- ほのぼの賞 藤本 彩花 (美浜中2年) 浅妻 沙月 (美浜中2年) 藤田 麻祐 (美浜中2年)
- 塩野 由貴 (美浜中2年) 高木麻理乃 (美浜中2年) 馬野 公宣 (美浜中2年)

【写真】 一般

- ふれあい賞 山岡 智子 (美浜中丹生分校職員)
- あったか賞 大森美代子 (レイクヒルズ美方病院職員) 中野 茜 (木野) 林 慎一郎 (河原市)
- ほのぼの賞 宇都宮理香 (金山) 原田 力 (上野) 満田 重利 (佐田)
- 山口 恭子 (太田)



この先はあなたにしたいです  
美浜中学校二年 高木 咲希

お母さんへ  
関西電力(株)美浜発電所 山崎 穂津美  
今年から社会人になった私に、毎日さりげないアドバイス、温かい言葉をかけてくれてありがとう。勤務先が遠く、朝が早い私より早く起きて、弁当を作ってくれてありがとう。高校三年間作り続けて一段落したのに、まだ少しお世話になりそうです。社会人になって働く大変さだけでなく、「お母さん」という存在の偉大さに気付きました。普段は、照れくさく面と向かって言えないけど、毎日感謝しています。今日もありがとう。



いっしょにあるこう  
美浜中丹生分校職員 山岡 智子

この頃、新道路の建設工事が盛んで、事業者の工事現場事務所が多くなっている。勿論工事関係者も多く、知らない人がどんどん入って来ている。朝、登校時に現場事務所前で揃って体操をしているのを見掛ける。また朝の挨拶をしている現場も多く来ている。登下校時に行き交う作業員も挨拶してくれるようになってきた。やはりチョットした挨拶がお互いの大きな信頼となっていくように思う。

現在は、朝の「おはようございます。」屋の「こんにちわ。」夕方「こんばんは。」の基本的な使い分けを上手に出来るようになってきた。各家庭でも基本的な挨拶を交わしておられると思う。家庭で一緒に挨拶のできる子供を育てていきたいと思う。

時に中学生、高校生に会った時、「おはよう、行ってらっしゃい。」「お帰り。」と声を掛けることがある。高校生でも「行ってきます。」「たっいま。」と応える生徒は少ない。黙って、はにかんでいる生徒が多い。

こうして集落の人、学区の人、誰もがお互いの気持ちに偽らさずチョットした挨拶を交わすことが出来るようになる。また、町全体の人権意識も高まってくることを信じて極力実践していきたい。

心の  
手紙  
写真

会えて、  
本当に  
よかった。

# 人権に関する町民意識調査の結果から その2

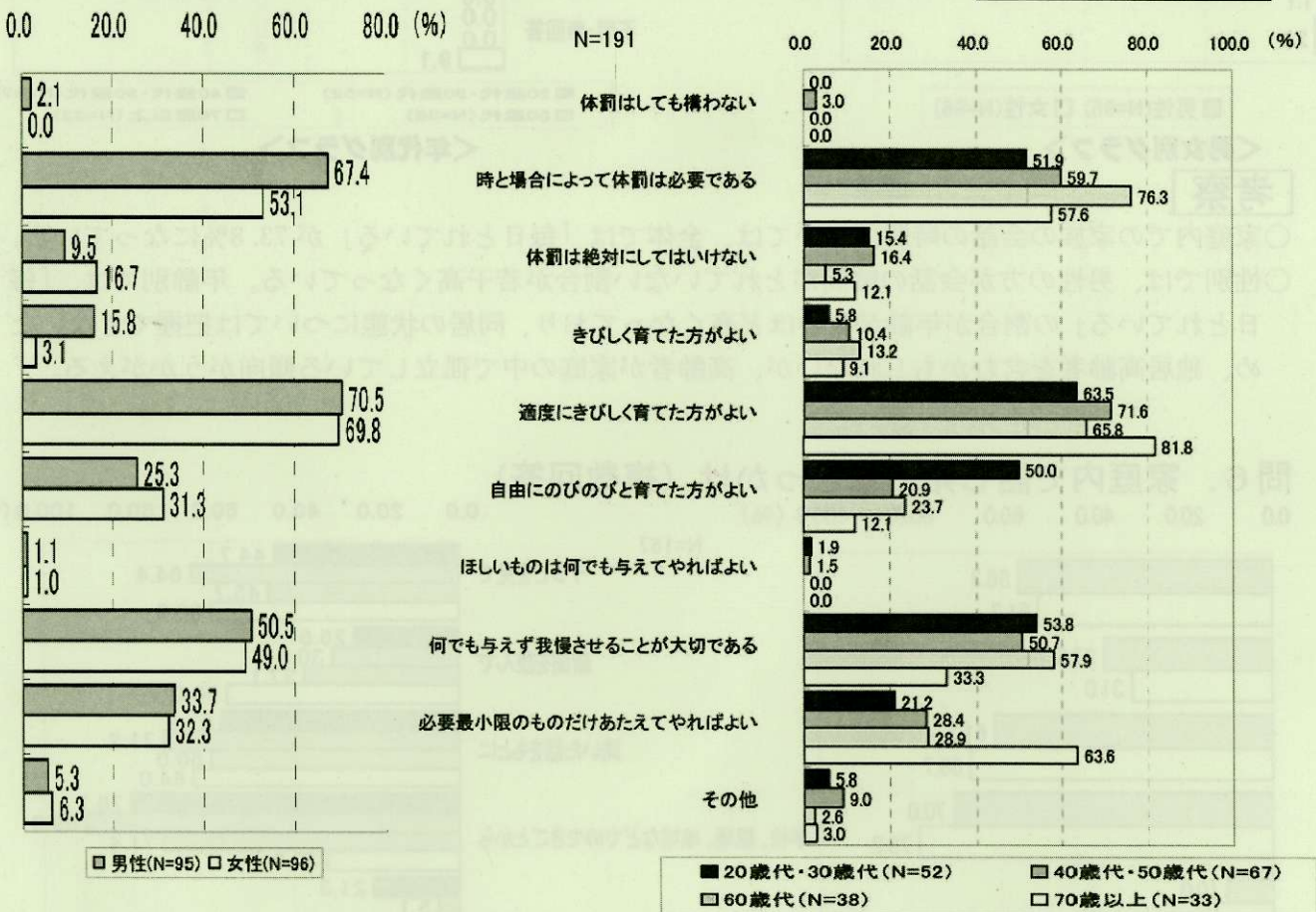
その1（人権協だより第40号 H21.11.20発行）に引き続き、今回は、「家庭内での子どもとの関わり」の結果についての考察を報告させていただきます。

<アンケートの質問内容>

- 問4. 家庭教育（しつけ）のあり方についてどう思いますか？（3つまで選んで○をつけて下さい。）  
 問5. 家庭内で家族の会話の時間はとれていますか？（どれか1つに○をつけて下さい。）  
 問6. 問5で「1」か「2」とこたえた方にお聞きします。話し始めるきっかけは何ですか？（いくつでも○をつけて下さい。）

## 問4. 家庭教育（しつけ）のあり方について（複数回答）

グラフ中のNは回答者数



### <男女別グラフ>

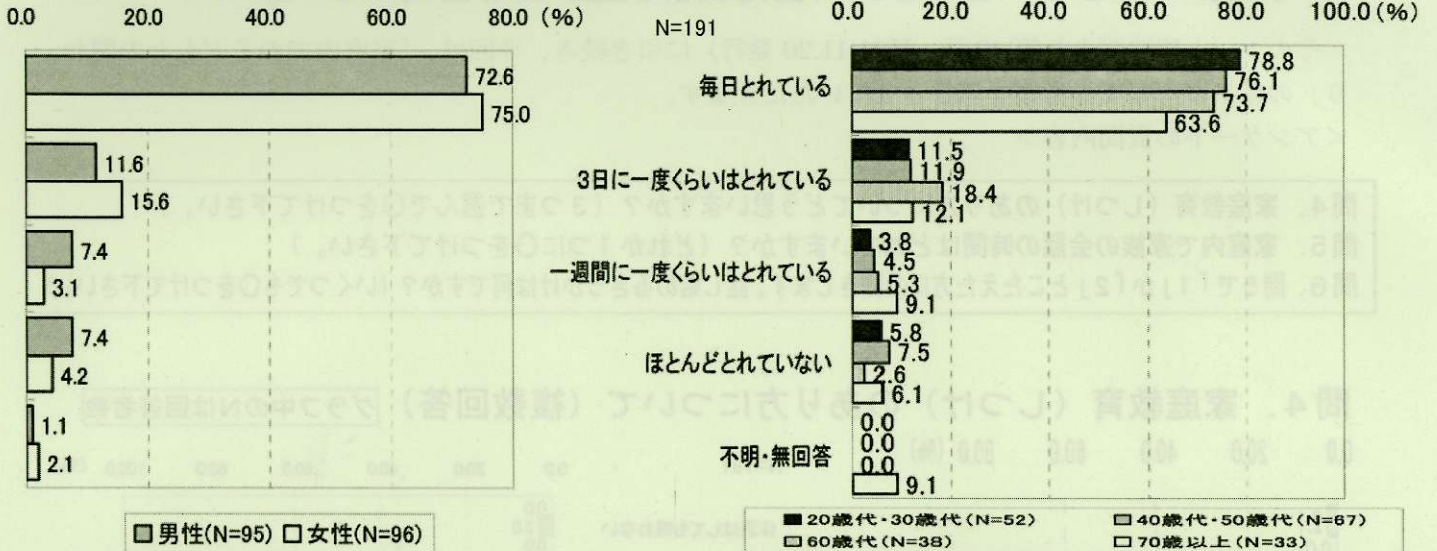
その他 「理想は押しつけない」「必要最小限とは言わずある程度与えてやればよい」「褒めるときよりしかなるときに愛情を持って」「いいところを見つけて褒めてあげる」「基本として考えさせる」等

### <年代別グラフ>

## 考察

- 家庭教育（しつけ）のあり方については、全体で「適度にきびしく育てた方がよい」「時と場合によって体罰は必要である」など、『きびしく育てるべき』との回答の割合が高くなっている。
- 性別では、女性に比べ男性の方が「体罰」に対して寛容な傾向がうかがえる。また、年齢別では、20歳代・30歳代で「自由にのびのびと育てた方がよい」が他の年齢に比べ高くなっている一方、70歳以上では「必要最小限のものだけあたえてやればよい」が高いなど、年齢別での意識の差が見られた。

### 問5. 家庭内での家族の会話時間（単数回答）



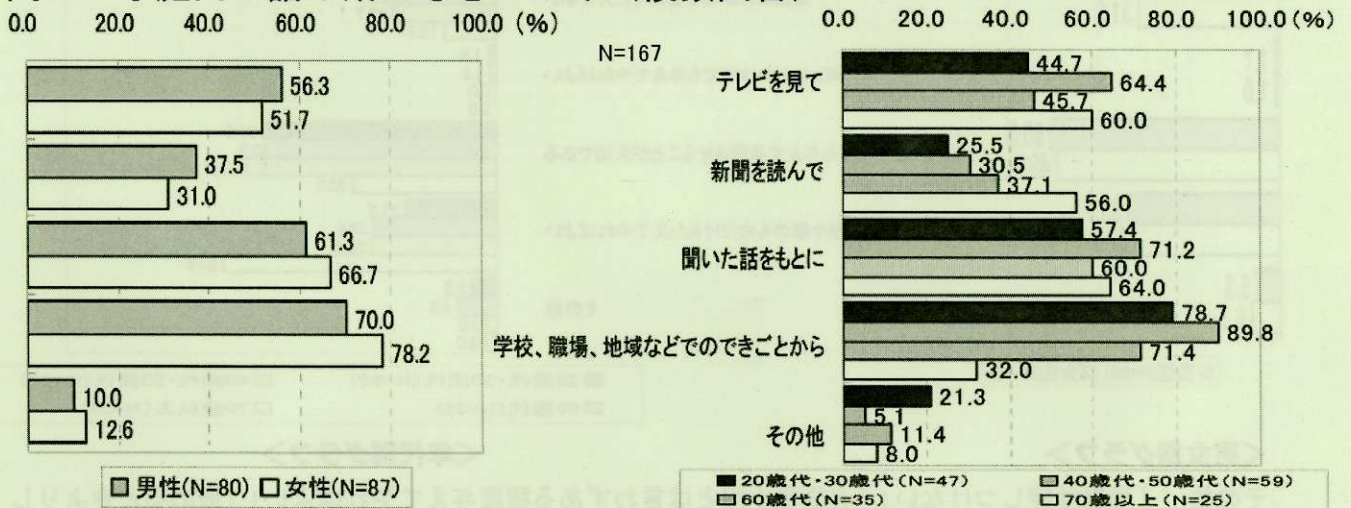
<男女別グラフ>

<年代別グラフ>

#### 考察

○家庭内での家族の会話の時間については、全体では「毎日とれている」が73.8%になっている。  
 ○性別では、男性の方が会話の時間がとれていない割合が若干高くなっている。年齢別では、「毎日とれている」の割合が年齢が若いほど高くなっており、同居の状態については把握できないため、独居高齢者を含むかもしれないが、高齢者が家庭の中で孤立している傾向がうかがえる。

### 問6. 家庭内で話し始めるきっかけ（複数回答）



<男女別グラフ>

<年代別グラフ>

その他 「子どもたちのこと」「食事の内容など」「特にきっかけを意識しない」「今日あったこと」「孫のこと」「読んだ本や映画など」「ゲーム」「習い事や趣味」「気になること」等

#### 考察

○全体的に見ると、家庭内で話し始めるきっかけについては、「学校、職場、地域などでのできごとから」が最も高くなっており、家庭外でのできごとがきっかけになっていることがうかがえる。  
 ○性別にみると、女性の方がその傾向が強くなっている。年齢別にみると、70歳以上では「学校、職場、地域などでのできごとから」の割合が他の年齢に比べて低く、行動が家庭の中に限定されている状況がうかがえる。

みなさんのご家庭でも、この結果を家族で話題にいただけると幸いです。

# こえ 声 こえ

「ふれあい」第40号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので一部を紹介します。

○人権に関する意識調査の結果からを見て、自分の家はどうだろうと思い見ていました。仕事の分担の理想などは、気がつく自分の希望ばかりになってしまい、本当にこれが理想なのか?と考え込んでしまうばかりでした。現実はまだ、分担するより自分でする方が早いと思ってしまう部分もあります。冷静な目が欲しいと思います。【郷市Eさん】

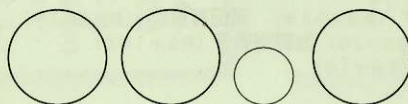
○大変よいできばえで感謝いたします。笑顔がたくさん「ふれあい」(カラー啓発冊子)になっており、読んでいてジーンと心に伝わってきました。このあたたかい活動が続きますように。【丹生Sさん】

このコーナーを始めて約10年になります。読者の皆さんからいただく声は、わたしたちの宝物です。「一方通行から双方向の広報をめざして」「皆さんの声をさらに広げることができるように」これからもよろしく願いいたします。(事務局T)

1		2		3	4		5
	■		■	6		■	
			8	■	9	10	
	■	11		12	■	13	
14	15	■	16		17	■	
18		19	■	20			
	■	21	22	■		■	
23							



二重わくの中に入った文字を使ってできる言葉が答えです。



## ■応募方法■

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。  
〒919-1192 美浜町郷市25-25  
美浜町生涯学習課内 人権協事務局
- 〆切は、平成22年4月26日(月)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「ささえあい」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。  
丹生小学校さん (丹生)  
野原 智美さん (新庄)  
西野喜代二さん (興道寺)  
中島さき子さん (興道寺)  
備前 栄子さん (郷市)

## よこのカギ

1. 昨年、民主党が与党になりました。
6. 建物に入って、下り階段を進みます。
7. ほとんど一年中、氷につつまれている地域のこと。
9. 千里の道も〇〇〇から。
11. 温暖な海に生息し、鋭い歯を持っています。
13. 鎌倉時代～室町時代にかけて成立した日本の舞台芸術の一種。
14. オリンピックで、3位で貰える〇〇メダル。
16. 冬場でも、温水を使用することにより泳ぐことが出来ます。
18. 大人しく、気の弱い性格のこと。
20. 使用している中で、特にお気に入りのこと。
21. ゴホン、ゴホン。風邪かなあ…。
23. 本州と北海道の間にあり、日本海と太平洋を結んでいます。

## たてのカギ

1. 動物の分類の一つ。人間や鳥はこの仲間に入るが、昆虫や貝などはこの仲間に入りません。
2. 1対1で試合を行う、竹刀を用いた武道。
3. 春に東方から吹いて来る風のこと。  
「東風(〇〇)吹かば 匂ひおこせよ 梅の花」
4. 急がば回れ。
- 5.
8. レースの1周のこと。〇〇〇タイムなど。
10. 鹿のオスは持っています。
12. デンマークの物理学者。〇〇〇半径などを発見しました。
15. 節分の豆まきで、福は?
17. 次々と積み重なること。
19. 煙草を吸うための道具。
22. 水が水蒸気へと変化。

## 編集後記

食品偽装や手抜き工事が次々と明るみに出る世の中になつてきたが、本来のものをつくることは日本人の得意とするところで、「職人の技」という言葉からは、すばらしい技術や、完成度の高い一品がいろいろと思ひ浮かぶ。

すぐれたものを見ると、それを手にする、あるいは味わう人の満足気な笑顔が浮かぶこともある。つくる人もまた、受け取る人の顔を思うゆえに仕事に精を出していく。

ものづくりの仕事というのは、そうした人と人とのつながりの上に成り立っている。それが日本人の誇りといってもいい。

最近気に入っている宅急便のCM。  
「場所に届けるんじゃない。人に届けるんだ。」

わたしたち広報部会も、「全戸配付」という言葉の意味を再認識し、町民の皆様一人一人の心に届くおたよりをめざして、また来年度もがんばります。